

# 2022年度（2023年3月期） 決算説明資料

---

2023年5月12日

**H.U.グループホールディングス株式会社**

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却費)の数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を「当期(四半期)純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2021年度 : 1USD = 112.37 JPY 1EURO = 130.56 JPY

2022年度 : 1USD = 135.49 JPY 1EURO = 140.95 JPY

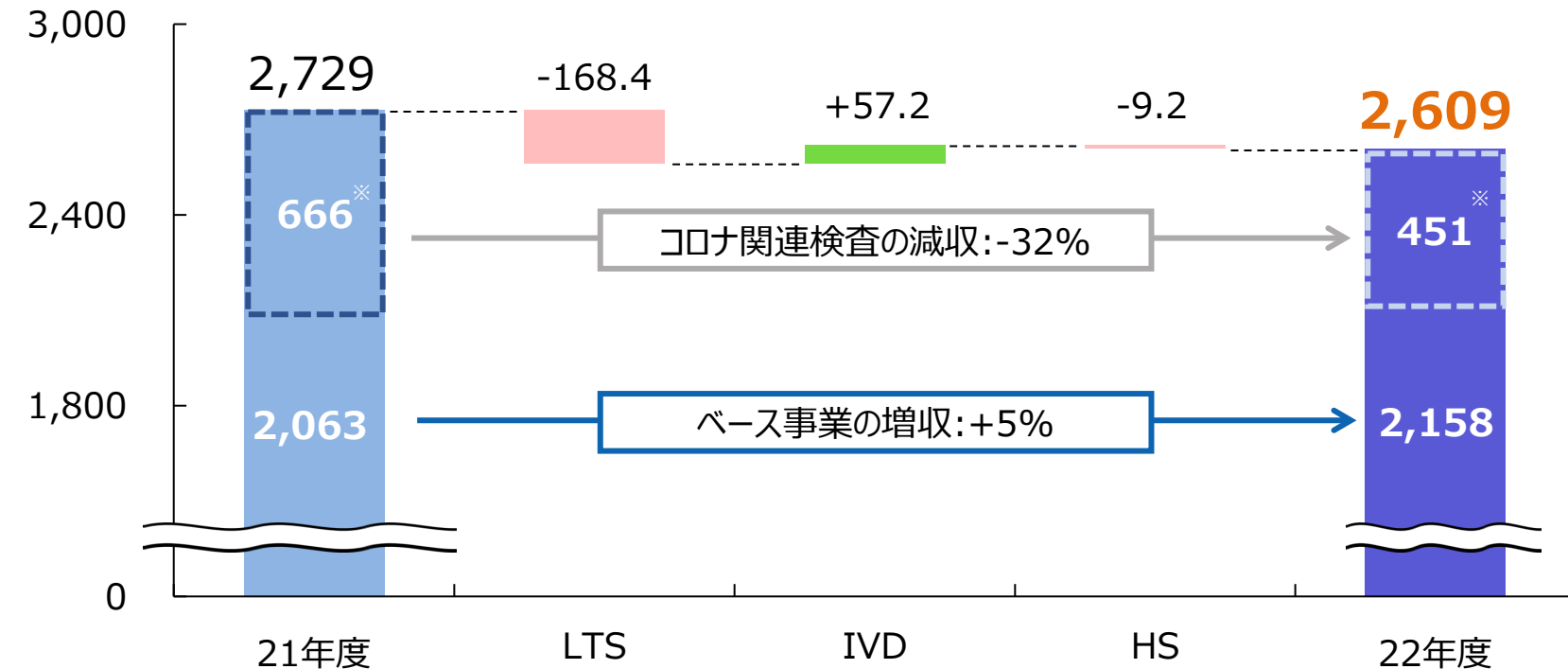
2023年度(計画) : 1USD = 130.00 JPY 1EURO = 138.00 JPY

# 2022年度（2023年3月期）業績概況

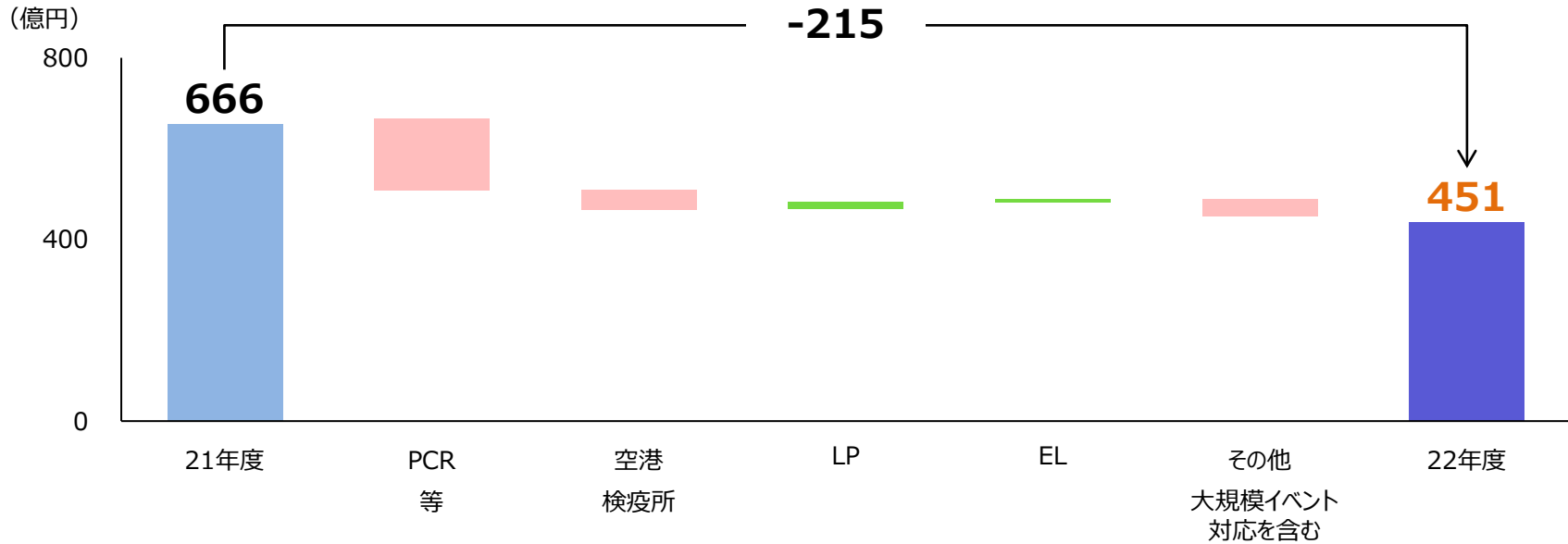
---

# 連結売上高（対前期比）

(億円)



# 22年度 COVID-19関連売上高（対前期比）



## 主な要因

### ポジティブ

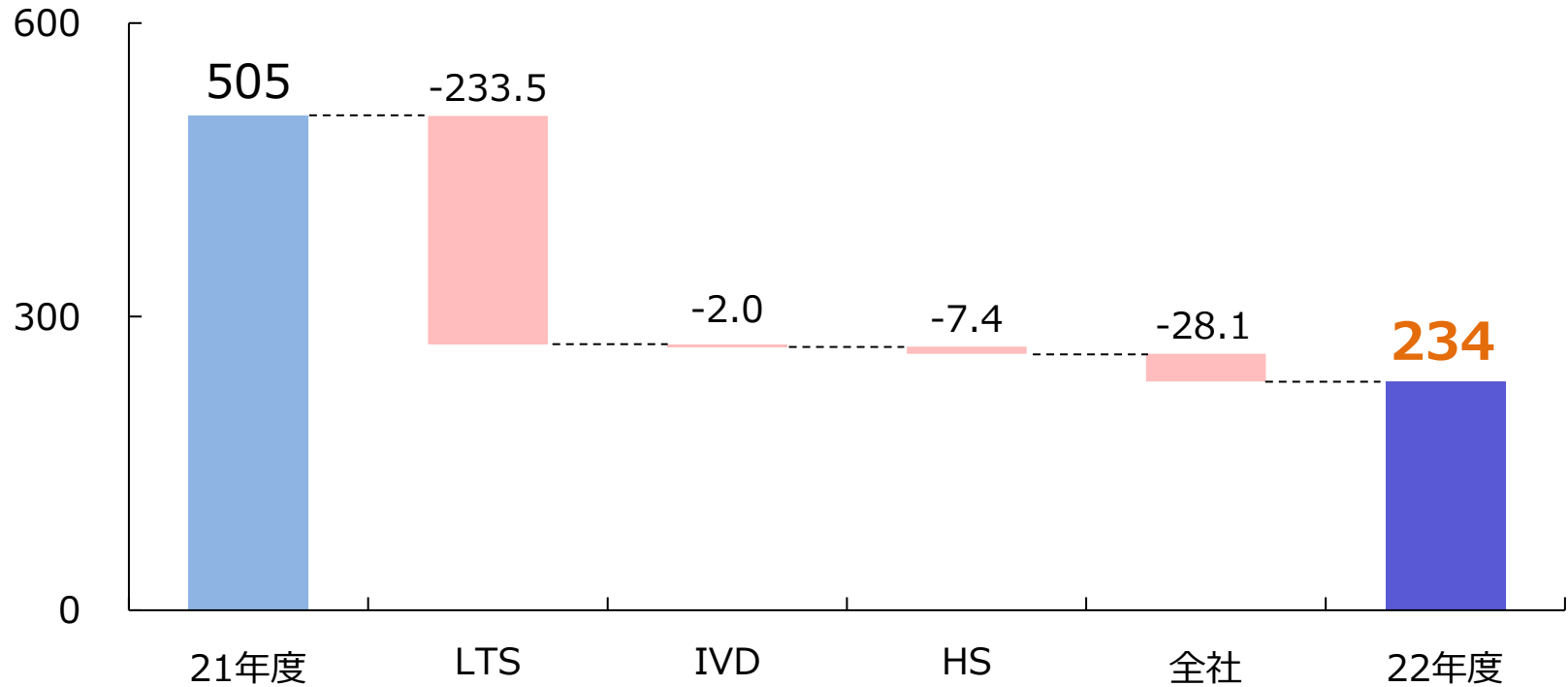
- 第7波、第8波にともなう抗原検査製品需要の増加（ルミパルス、エスプライン）

### ネガティブ

- PCR検査の診療報酬改定（1,800点 → 700点）
- 空港検疫所における入国規制緩和
- 21年度は一過性要因あり（大規模イベント対応）

# 連結営業利益（対前期比）

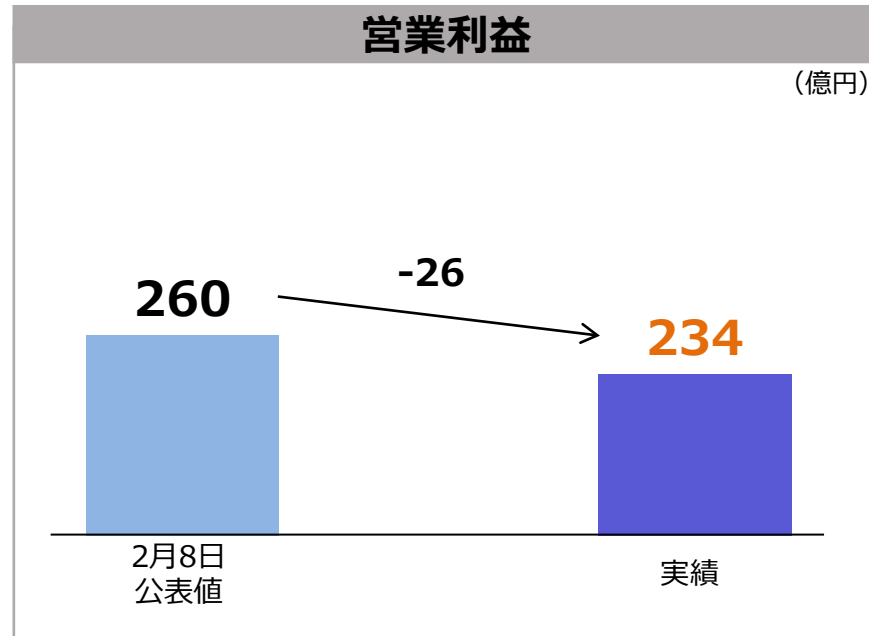
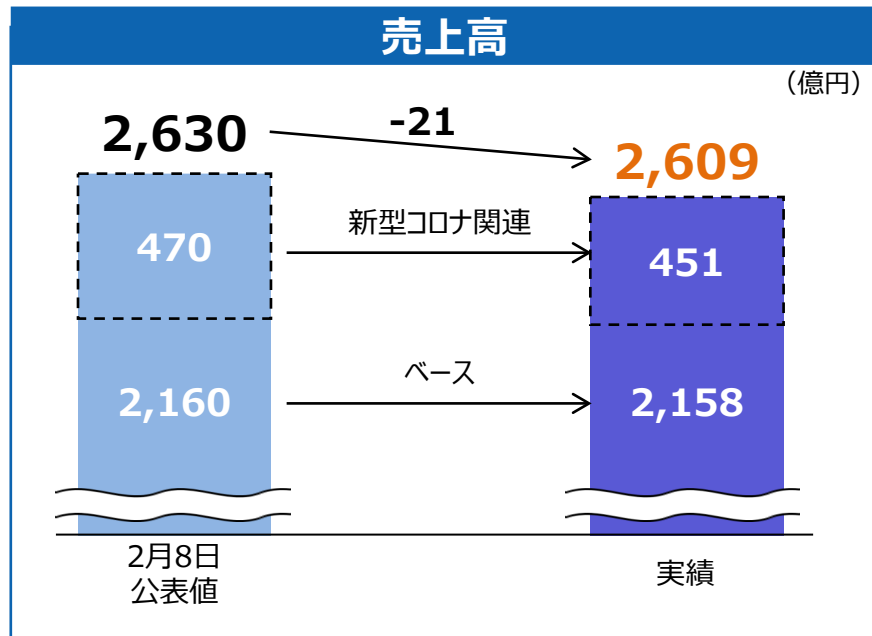
(億円)



# 2023年2月時の想定との差異（売上高、営業利益）

新型コロナ第8波が想定以上に早期に収束に向かい、コロナ関連の売上、利益が想定を下回った

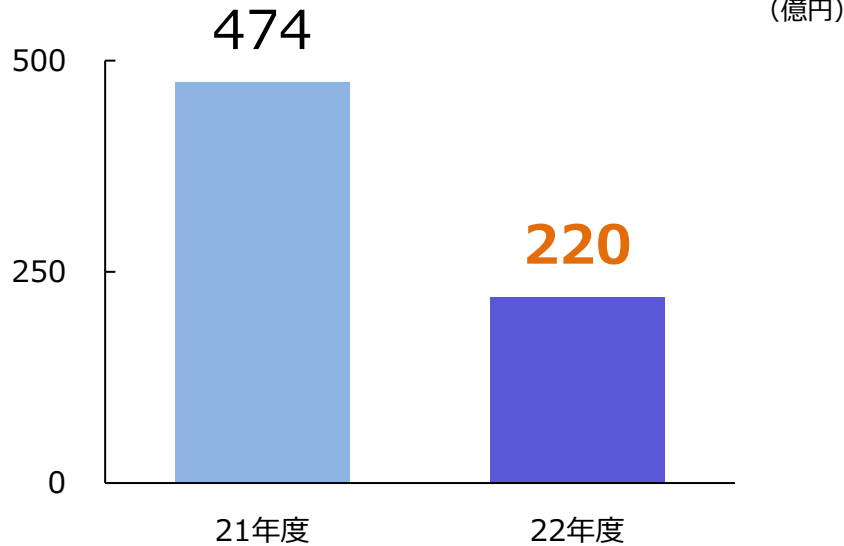
- 第8波にともなう検査需要の増加および入国規制再強化による検疫所検査の増加は限定的
- ベース事業はほぼ2月時点の想定通り



# 連結経常利益および当期純利益

## 経常利益

(億円)

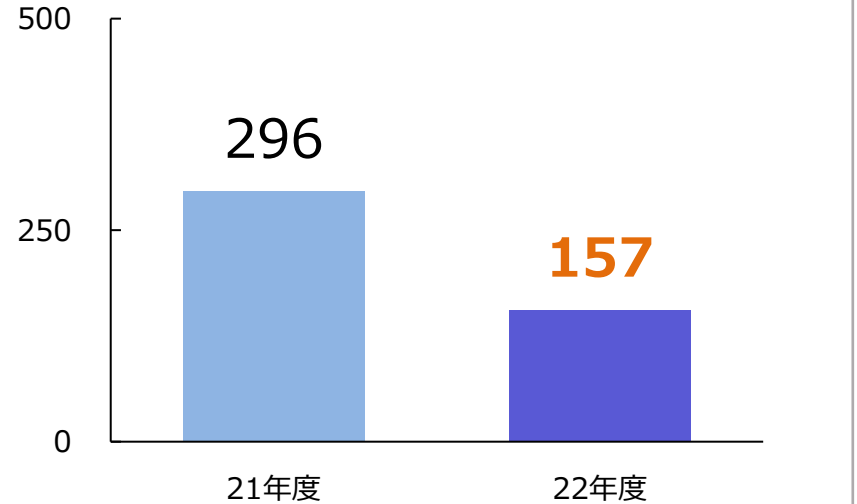


### 主な営業外損益

- 為替差益 +4.9億円
- 持分法による投資損失 ▲19.5億円

## 当期純利益

(億円)



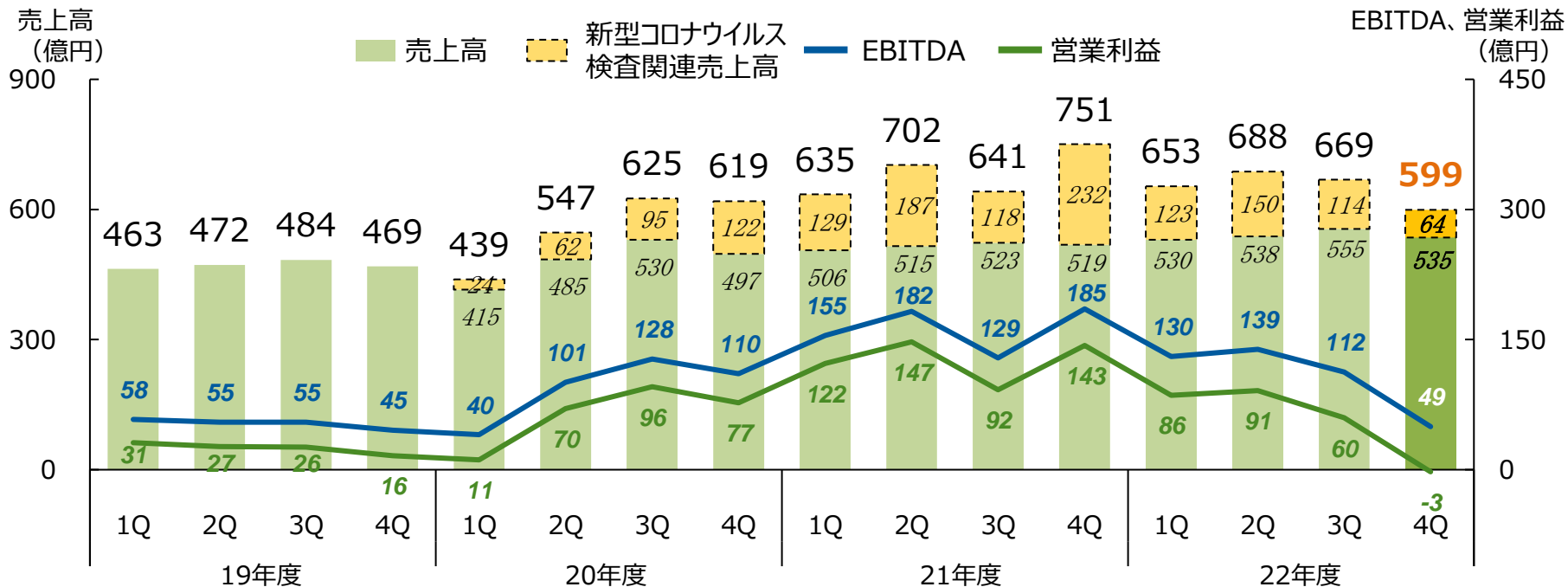
### 主な特別損益

- 固定資産売却益 +26.4億円  
(Fujirebio Taiwan Inc.)



# 四半期毎の業績推移

- 2022年度はH.U. Bioness Complex関連費用の発生、感染長期化にともなう検査数の回復遅延、恒常的な固定費の増加
- 上記に加え、第4四半期には新型コロナ関連売上も減少し大幅減益



# LTS事業

## 四半期推移

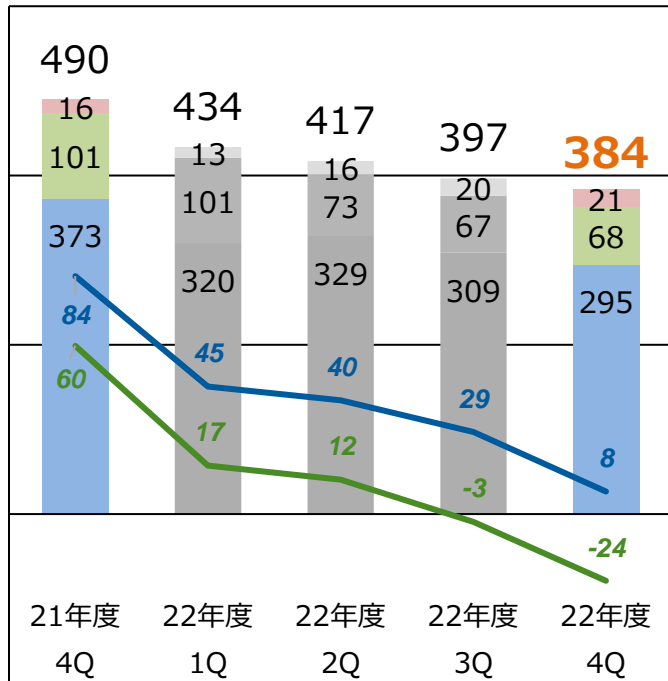
売上高  
(億円)

600

400

200

0



■ 院外事業    ■ 院内事業    ■ その他  
— EBITDA    — 営業利益

EBITDA  
営業利益  
(億円)

180

120

60

0

## 対前期比

(億円)

	21年度	22年度	対前期比 増減	
売上高	1,799	1,631	-168.4	-9.4%
院外事業	1,406	1,252	-154.0	-11.0%
院内事業	339	309	-29.8	-8.8%
その他	54	70	+15.4	+28.3%
EBITDA	322 <b>17.9%</b>	123 <b>7.5%</b>	-199.9	-62.0%
営業利益	236 <b>13.1%</b>	3 <b>0.2%</b>	-233.5	-98.8%

### 売上高

- 新型コロナウイルス関連：約239億円（前期約448億円）  
増収：エスプラインの販売等  
減収：PCR検査、空港検疫所における抗原定量検査、21年度の一過性売上（大規模イベント関連）
- 遺伝子関連検査の増加

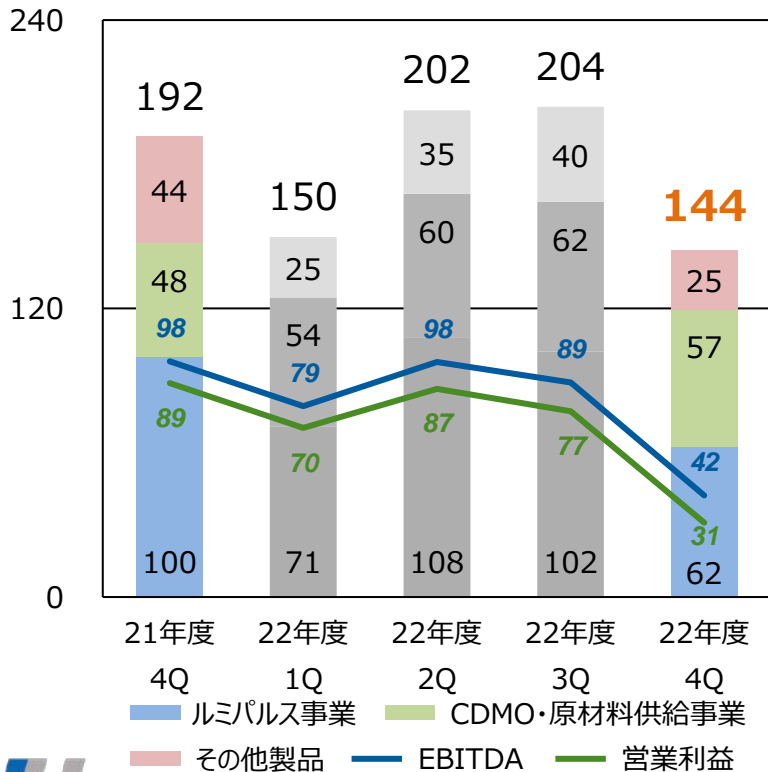
### 営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査におけるPCR検査を中心とした診療報酬点数の減少
- H.U. Bioness Complex関連費用（前期：約69億円）  
一時費用含む経費：約70億円、減価償却費：約41億円

# IVD事業

## 四半期推移

売上高  
(億円)



EBITDA  
営業利益  
(億円)

240

120

0

## 対前期比

(億円)

	21年度	22年度	対前期比 増減	
売上高	643	701	+57.2	+8.9%
ルミパルス	320	343	+23.0	+7.2%
国内	275	307	+31.6	+11.5%
海外	45	36	-8.6	-19.0%
CDMO・原材料	182	233	+51.0	+28.1%
その他	141	124	-16.8	-11.9%
EBITDA	300	309	+8.6	+2.9%
営業利益	267	265	-2.0	-0.8%

ルミパルス 内販売上高	83	70	-13.2	-15.9%
-------------	----	----	-------	--------

### 売上高

- 新型コロナウイルス関連：約212億円（前期：約218億円）  
 ✓ ルミパルス：国内増収、海外減収
- ベース：CDMOおよび国内ルミパルスが伸長

### 営業利益

- 内販売上高の減少にともない利益が減少
- R&Dの強化

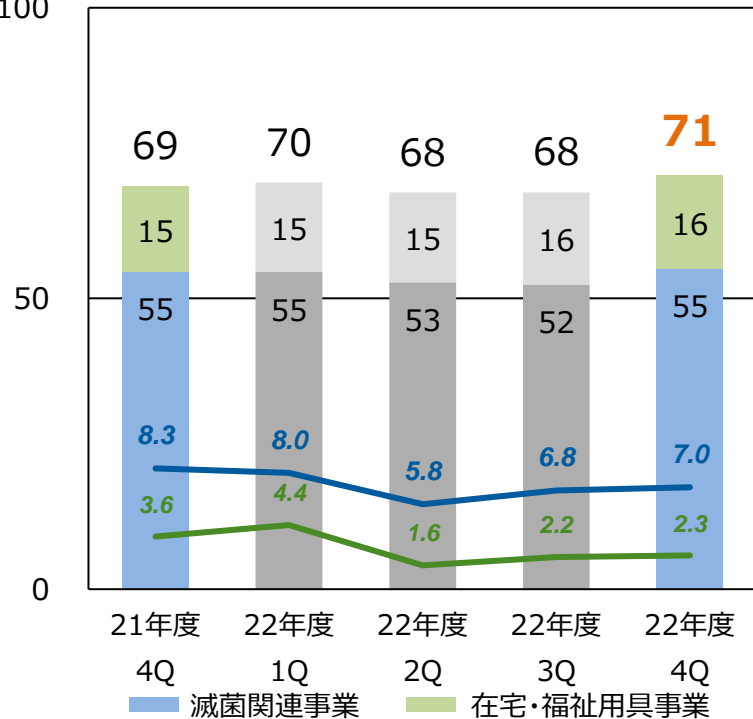
為替影響（売上高：+45億円、営業利益：+9億円）

# HS事業

## 四半期推移

売上高  
(億円)

100



EBITDA  
営業利益  
(億円)

40

## 対前期比

(億円)

	21年度	22年度	対前期比 増減	
売上高	287	278	-9.2	-3.2%
滅菌関連	229	215	-13.9	-6.1%
在宅・福祉用具	58	63	+4.7	+8.1%
EBITDA	33.6	27.6	-6.0	-17.9%
営業利益	18.0	10.6	-7.4	-41.3%

### 売上高

#### 滅菌関連

- 医材預託品販売の減少

#### 在宅・福祉用具

- 増収を維持

### 営業利益

- 人件費の増加
- 将来成長に向けた先行費用の影響

# 連結業績（対前年同期比）

（億円）

	21年度		22年度		対前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減	
<b>売上高</b>	<b>2,729</b>		<b>2,609</b>		<b>-120.4</b>	<b>-4.4%</b>
LTS	1,799		1,631		-168.4	-9.4%
IVD	643		701		+57.2	+8.9%
HS	287		278		-9.2	-3.2%
<b>営業利益<sup>※</sup></b>	<b>505</b>	<b>18.5%</b>	<b>234</b>	<b>9.0%</b>	<b>-271.1</b>	<b>-53.7%</b>
LTS	236	13.1%	3	0.2%	-233.5	-98.8%
IVD	267	41.6%	265	37.9%	-2.0	-0.8%
HS	18	6.3%	11	3.8%	-7.4	-41.3%
<b>経常利益</b>	<b>474</b>	<b>17.4%</b>	<b>220</b>	<b>8.4%</b>	<b>-254.1</b>	<b>-53.6%</b>
<b>当期純利益</b>	<b>296</b>	<b>10.8%</b>	<b>157</b>	<b>6.0%</b>	<b>-139.2</b>	<b>-47.0%</b>
<b>EBITDA</b>	<b>651</b>	<b>23.9%</b>	<b>431</b>	<b>16.5%</b>	<b>-220.4</b>	<b>-33.8%</b>
<b>ROE</b>	<b>23.2%</b>		<b>10.8%</b>		<b>-12.4pt</b>	

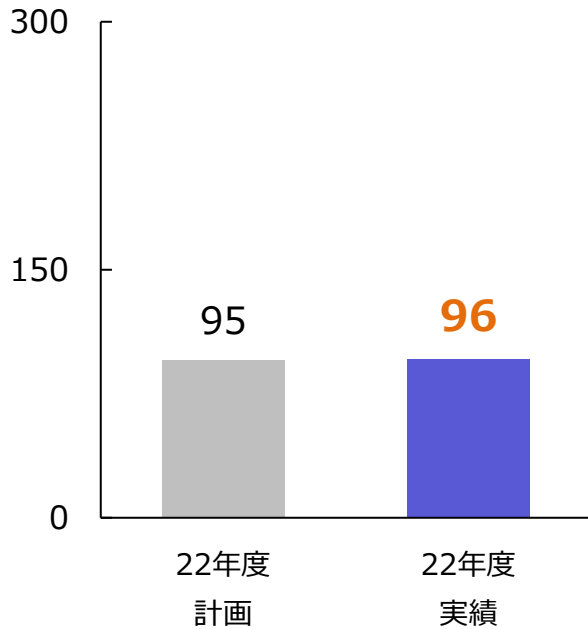
※ 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（21年度：▲16.7億円、22年度：▲44.8億円）

# 研究開発費、設備投資額、減価償却費（対期首計画）

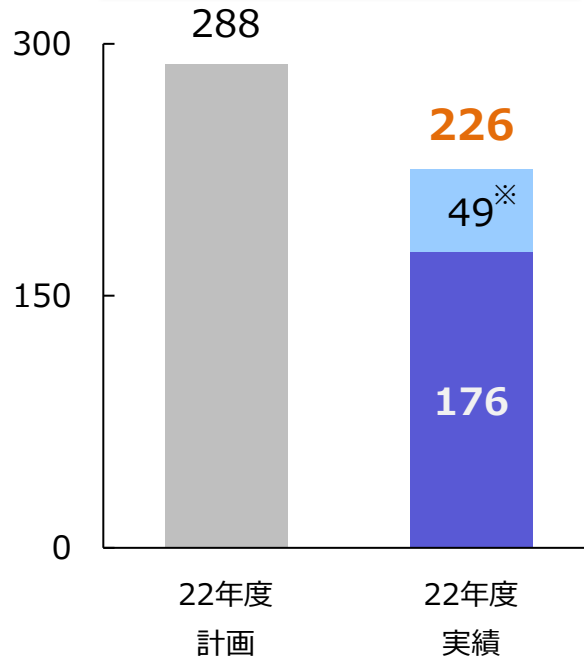
- 設備投資：H.U. Bioness Complex 一部の検収が23年度へ期ずれ
- 研究開発費・減価償却費はおおむね期初計画通り

（億円）

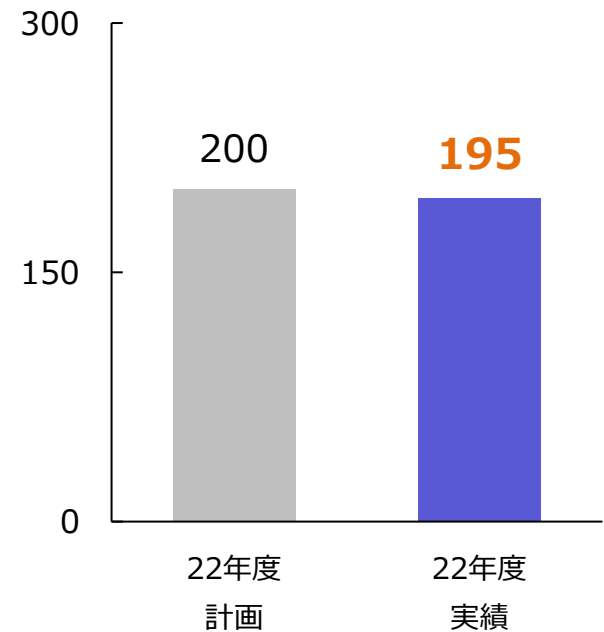
## 研究開発費



## 設備投資額

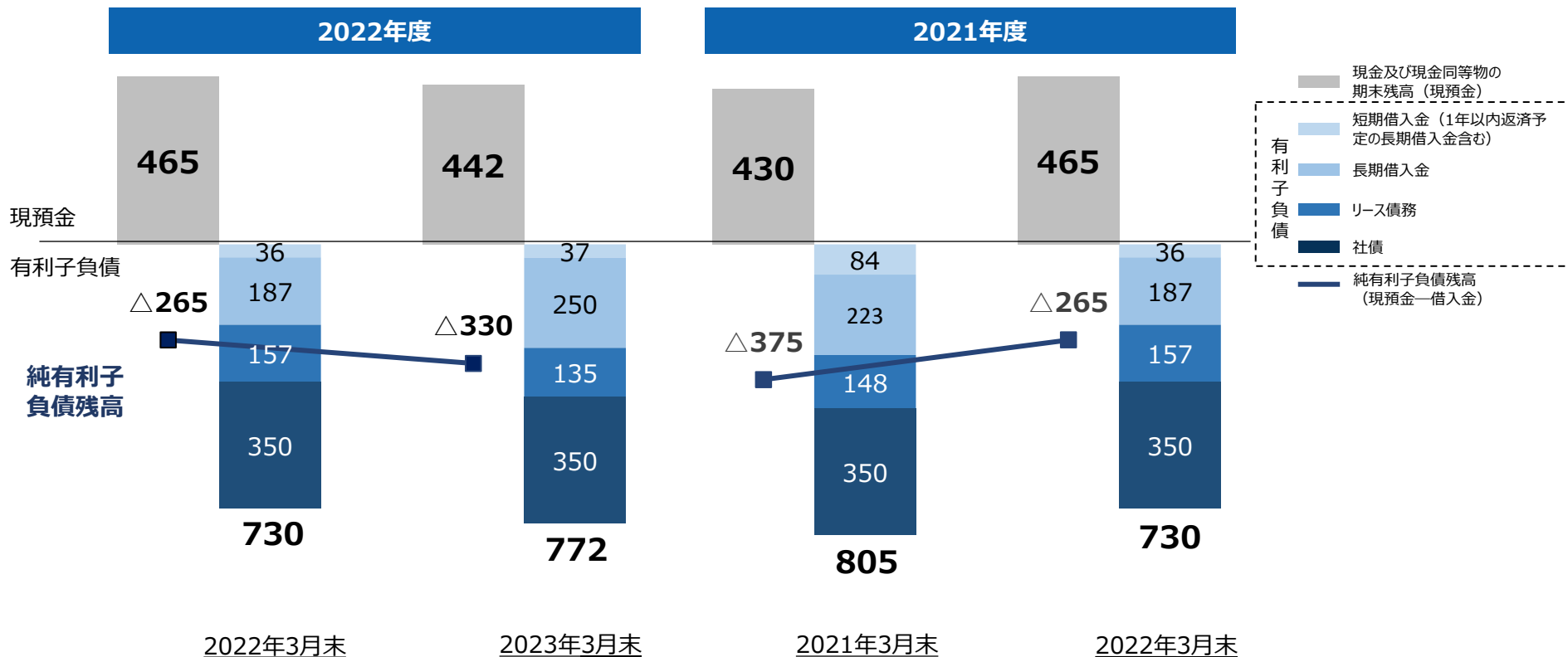


## 減価償却費

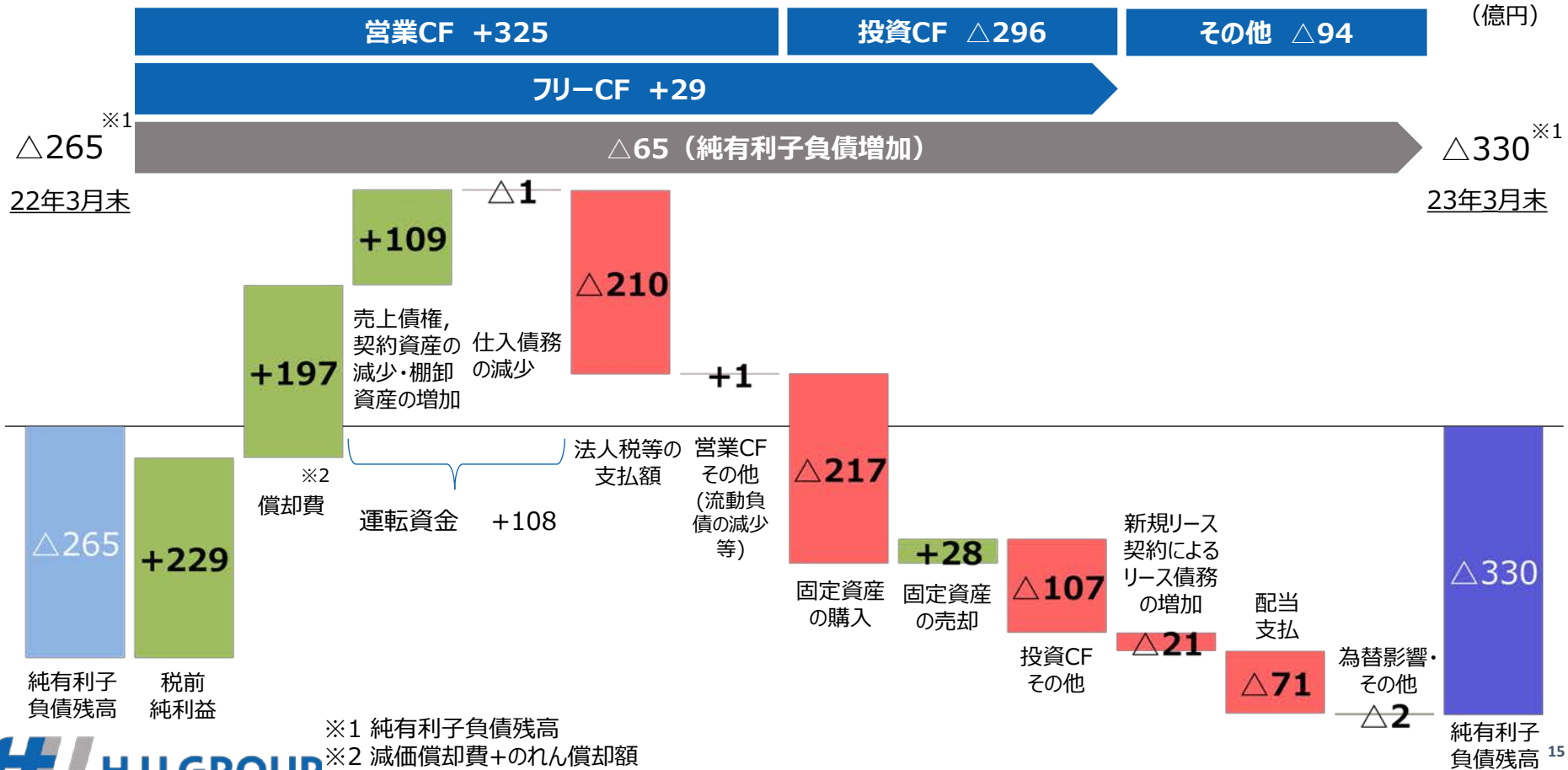


# 現預金・有利子負債残高

(億円)

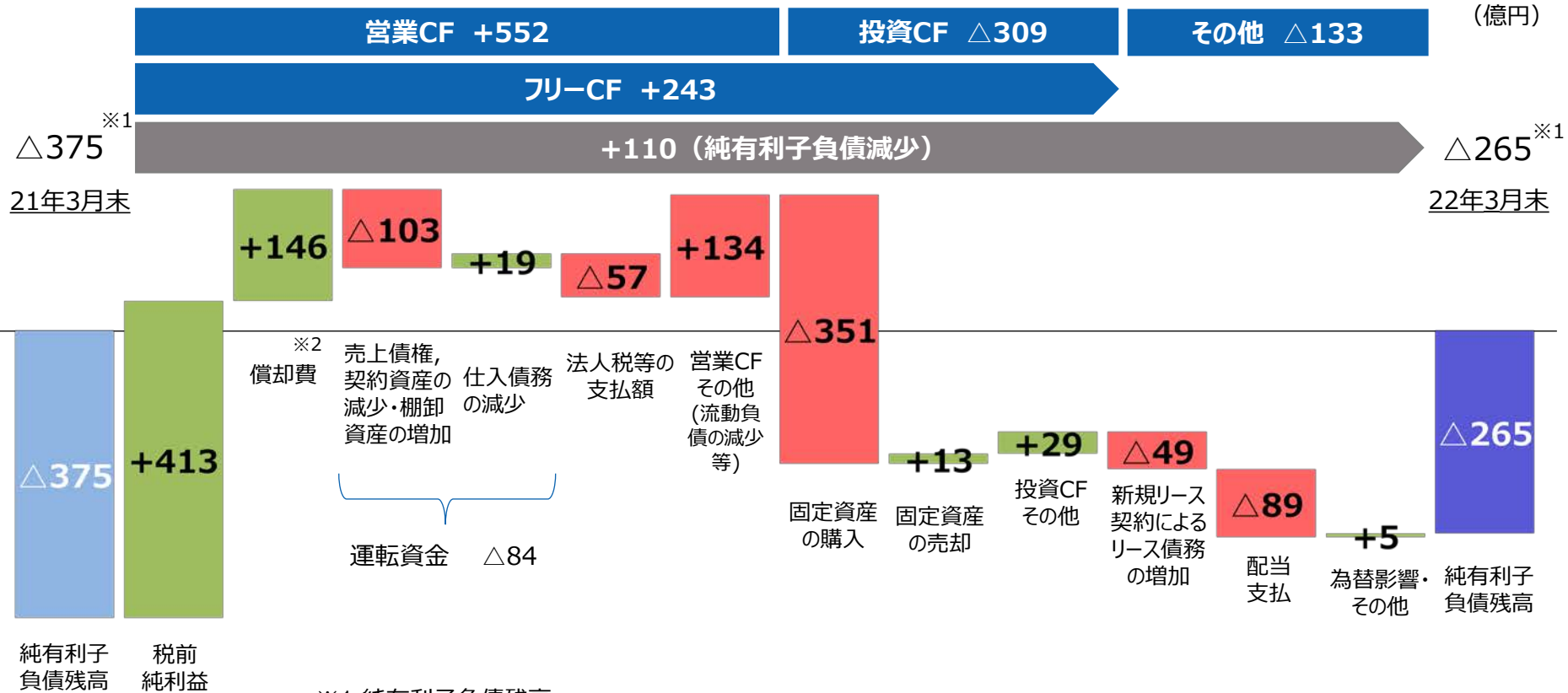


# 2022年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析





# 2021年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析

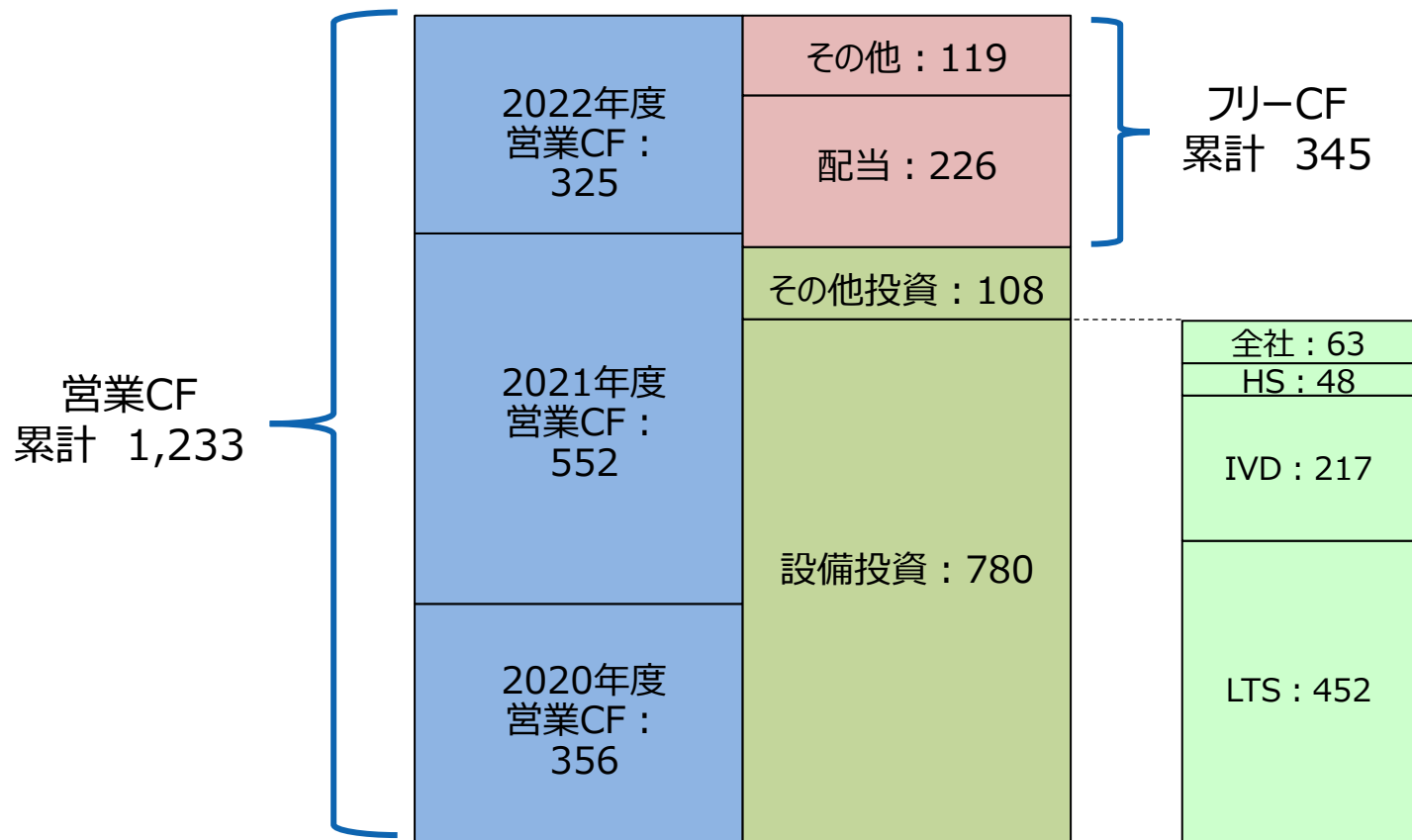


※1 純有利子負債残高

※2 減価償却費+のれん償却額

# 2020年度～2022年度（3年間）累計キャッシュフロー（キャピタルアロケーション）

(億円)

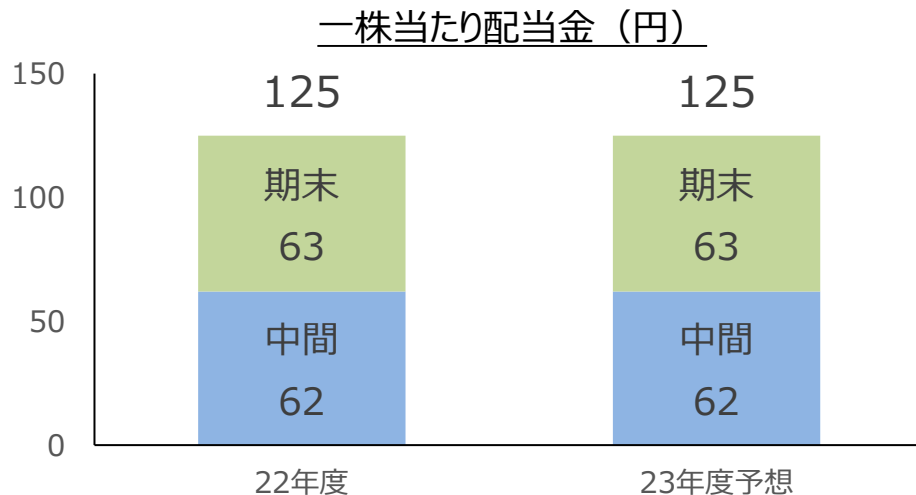


# 株主還元について

## 基本方針

主たる配当のKPIとして連結自己資本配当率（DOE）6%レベルを目指し、その上でキャッシュ・フロー、中長期的に健全な財務基盤の維持などを総合的に勘案し、安定的かつ継続的な配当を実施する

- 2022年度期末の一株当たり配当金は63円（年間125円）
- 2023年度予想も同じく125円とする、DOEは約5%
- （ご参考）配当性向 22年度：約46%、23年度：約119%（予想）



# 2023年度（2024年3月期）計画

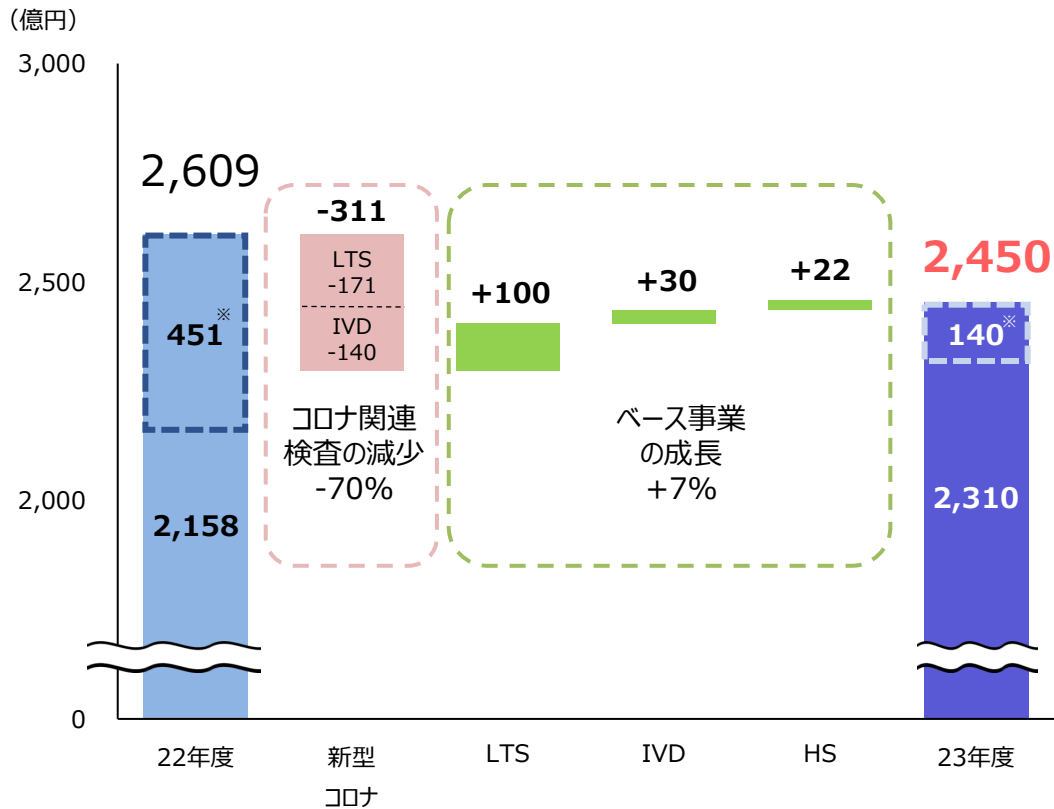
---

# 2023年度数值計画

(億円)

	2022年度 実績	2023年度 計画	
売上高	2,609	<b>2,450</b>	-159 -6.1%
LTS	1,631	1,560	-71 -4.3%
IVD	701	590	-111 -15.8%
HS	278	300	+22 +8.1%
営業利益	234	<b>140</b>	-94 -40.1%
経常利益	220	<b>120</b>	-100 -45.5%
当期純利益	157	<b>60</b>	-97 -61.7%
EBITDA	431	<b>360</b>	-71 -16.4%
ROE	10.8%	<b>4.0%</b>	-6.8pt

# 2023年度売上高計画（対2022年度比）



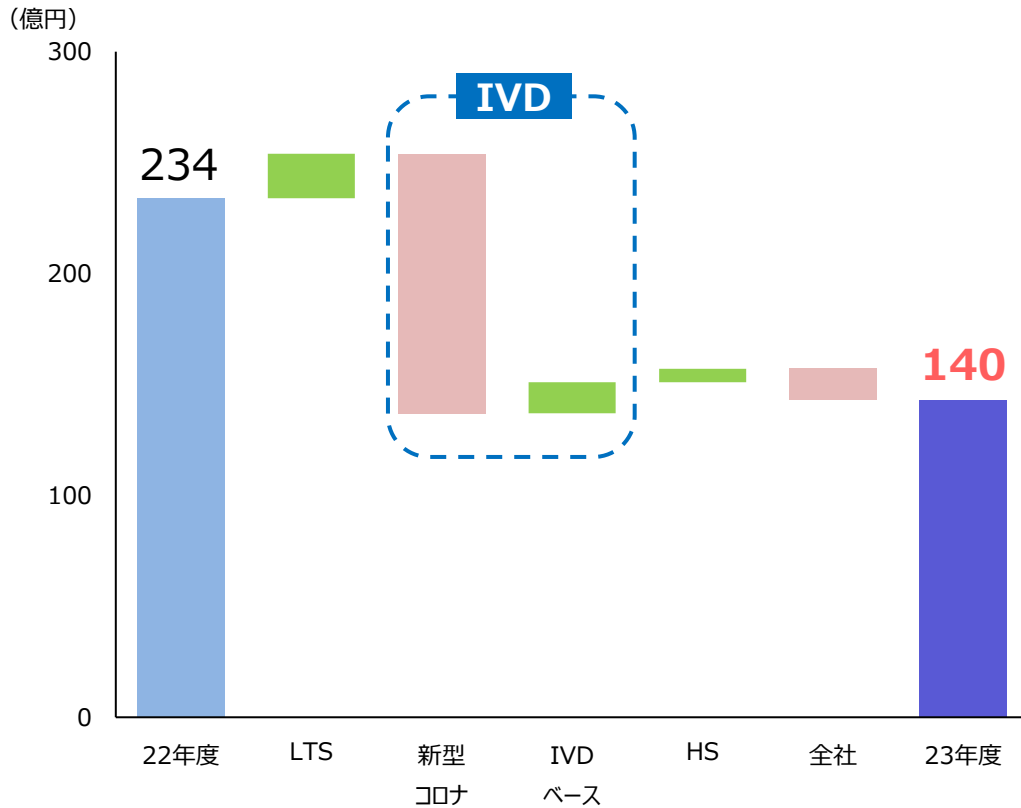
## LTS

- (+)新規顧客獲得
- (+)遺伝子関連検査の増加
- (+)感染長期化によって落ち込んだベース検査（検体数）の回復
- (-)コロナ関連検査の減少

## IVD

- (+)CDMOの成長
- (+)国内ルミパルスの試薬項目拡販
- (+)Neuro項目の増加
- (-)コロナ関連検査の減少
- (-)為替

# 2023年度営業利益計画（対2022年度比）



## LTS

- (+)効率化効果発現
- (+)売上成長にともなう限界利益増
- (-)コロナ関連検査の減収による減益
- (-)H.U. Bioness Complex関連費用増加

## IVD

- (+)売上成長にともなう利益増 (CDMO、国内ルミパルス)
- (-)コロナ関連検査の減収による減益
- (-)R&D費用増加、為替影響

# 2023年度計画 基本方針

23年度は新型コロナ関連検査の減少、H.U. Bioness Complexによる発現効果が限定的かつエネルギーコスト等が高止まるため、収益性の改善を目指す

## LTS

- H.U. Bioness Complexの安定稼働
- 検査オペレーションの見直しによる原価改善
- シェアロジスティクス効果の早期発現

## IVD

- CDMO：新規開発案件の売上発現、受託項目数のさらなる拡大
- 国内ルミパルス：大型機・差別化項目導入加速
- R&D：Neurology血液項目の薬事登録、超高感度検出法RUO機の上市

## HS

- 重要顧客にフォーカスし収益性を改善
- 高度な知識やノウハウを必要とする手術室関連ビジネスの拡大



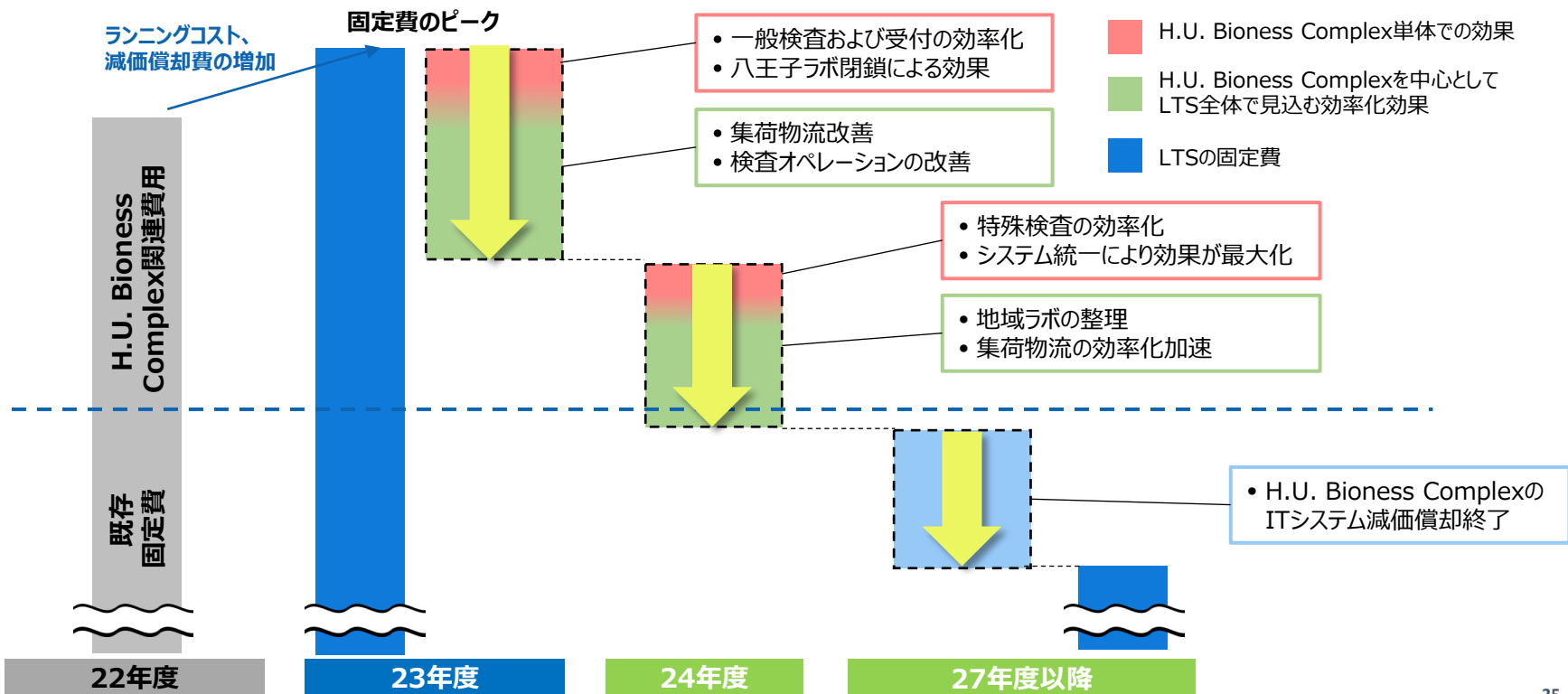
# H.U. Bioness Complex関連費用・発現効果

23年5月よりあきる野での全面稼働がスタート、下期に向けて効果の刈り取りを加速

		2021年度	2022年度	2023年度（見込み）	
コスト	一時費用	▲56億円	▲33億円	▲10億円	上期中心に発生
	減価償却費	▲3億円	▲41億円	▲61億円	ほぼピークの水準
	ランニングコスト※	▲10億円	▲37億円	▲59億円	エネルギーコストの上昇リスクはあるが一定を想定
	コスト合計	▲69億円	▲111億円	▲130億円	
効果	効率化効果	—	—	+23億	上期は限定的、下期中心に発現

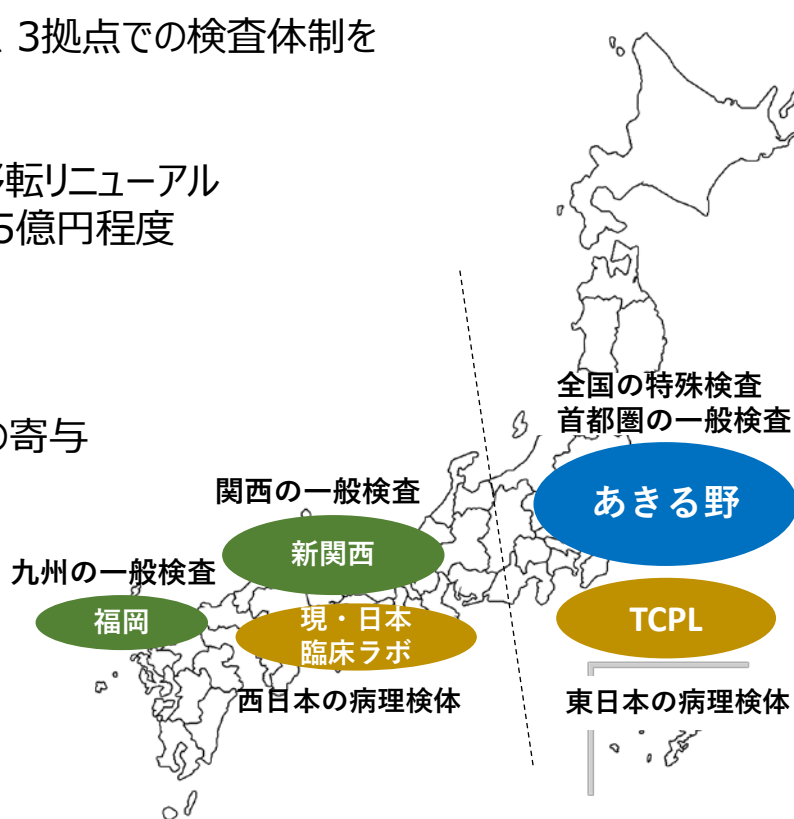
# LTS事業の今後の収益性改善

H.U. Bioness Complex単体での効果および稼働にともなって実現するLTS全体での効率化効果によって、24年度には増加した費用を上回るコスト削減効果が発現



# 全国検査体制の整備

- H.U. Bioness Complexが安定稼働に向かう中、3拠点での検査体制を確立すべく、新関西ラボを設立する
- 新関西ラボの意義・目的
  1. 関西圏のグループ会社（日本臨床）ラボの移転リニューアル
    - ✓ 設備投資見込み100億円程度、不動産85億円程度
  2. 拡大する関西市場でのキャパシティ増強
    - ✓ 関西圏でのシェア拡大、成長加速
  3. H.U. Bioness Complex特殊検査増量への寄与
    - ✓ スケールメリットの最大化
  4. 病理検査は東西検査体制を整備
    - ✓ 東日本：TCPL※
    - ✓ 西日本：現・日本臨床ラボを活用

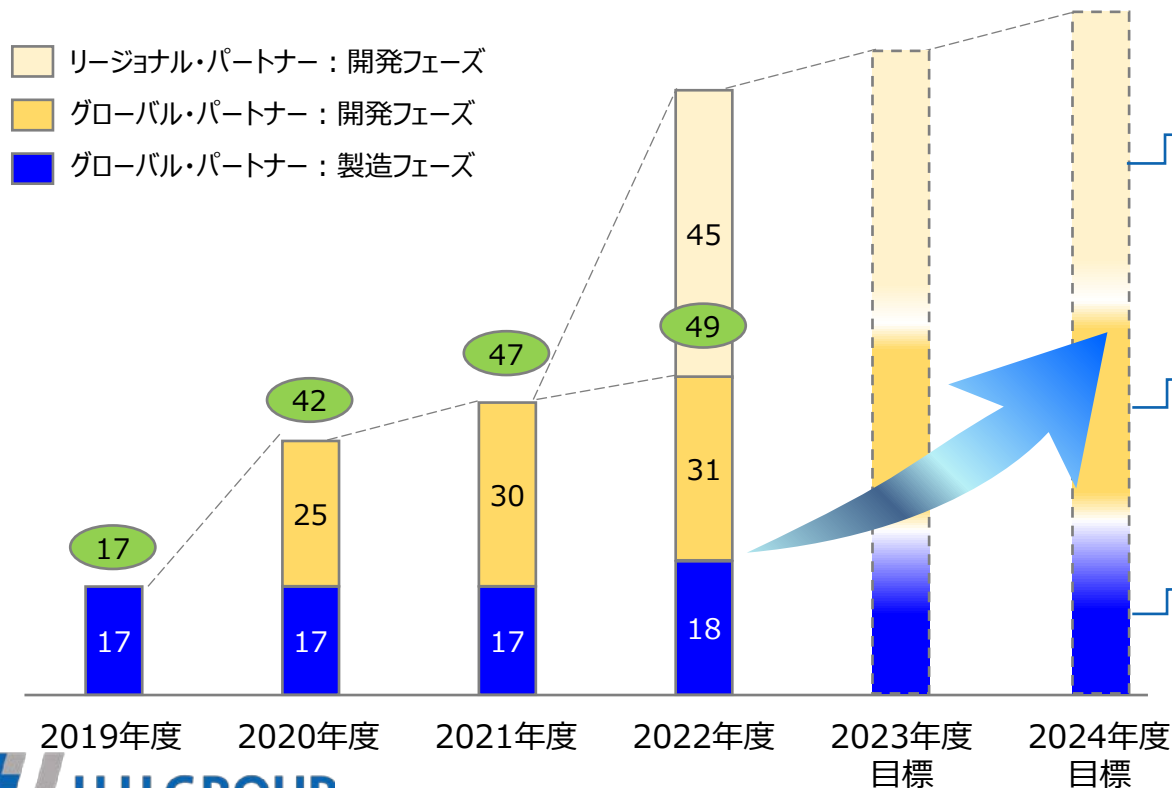


# IVD : CDMO

## CDMO : のべ受託項目数 (試薬製造)

## ポイント

- リージョナル・パートナー：開発フェーズ
- グローバル・パートナー：開発フェーズ
- グローバル・パートナー：製造フェーズ



### リージョナル・パートナー

- 開発を完了し、製造フェーズに移す (売上の発現)

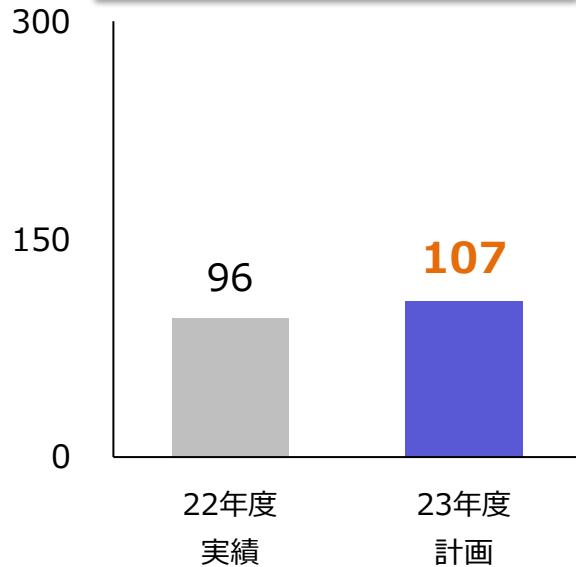
### グローバル・パートナー

- 開発：Neurology関連項目を中心に年平均+5項目以上の獲得を目指す
- 製造：開発を完了し、製造フェーズに移す (売上の発現)

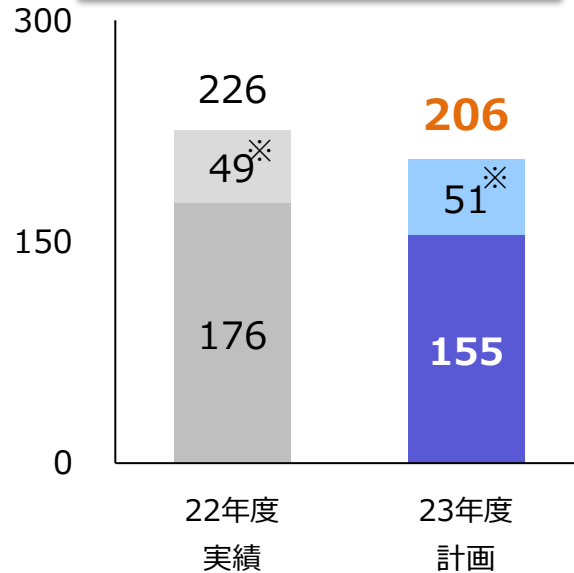
# 2023年度 研究開発費、設備投資、減価償却費

(億円)

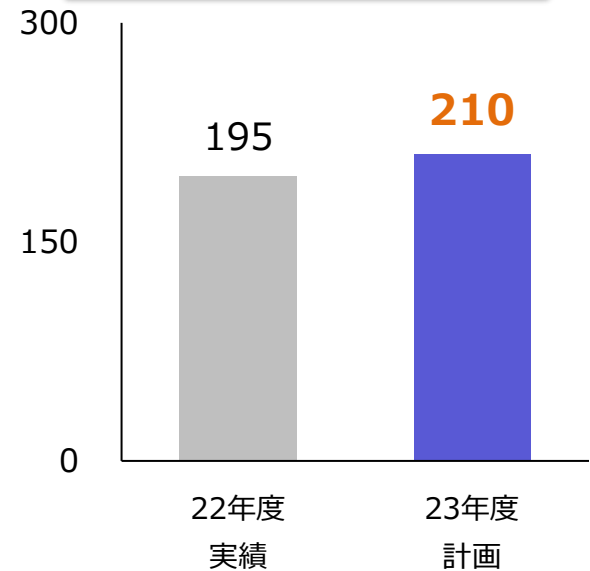
## 研究開発費



## 設備投資額



## 減価償却費



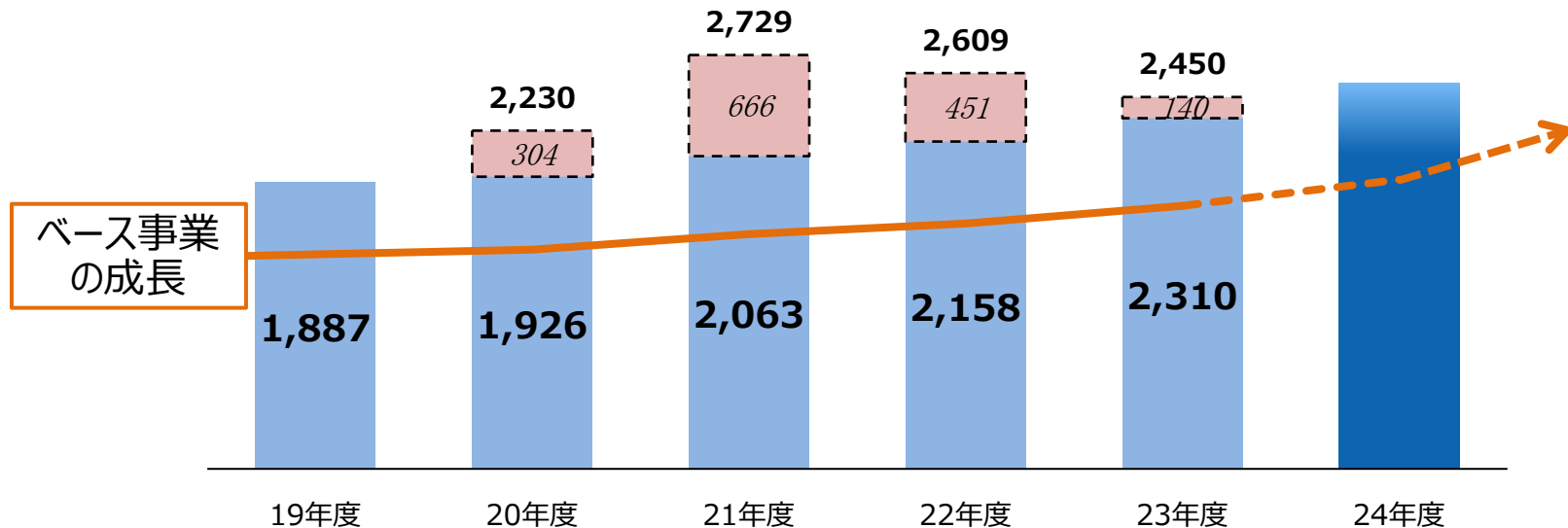
- IVD : CDMOの成長にともなう増加、  
超高度RUO上市  
→将来成長のため100億円ベースを継続

- H.U. Bioness Complex関連 (22年度からの期ずれ)
- 通常投資は150億円レベルへ厳選
- 減価償却費は200億円 + aの水準

# 24年度の売上高イメージ

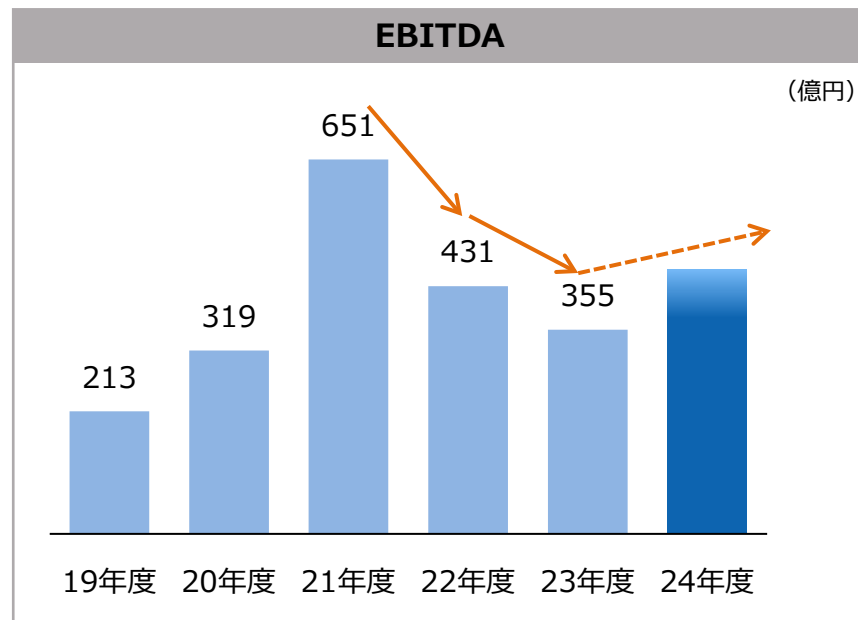
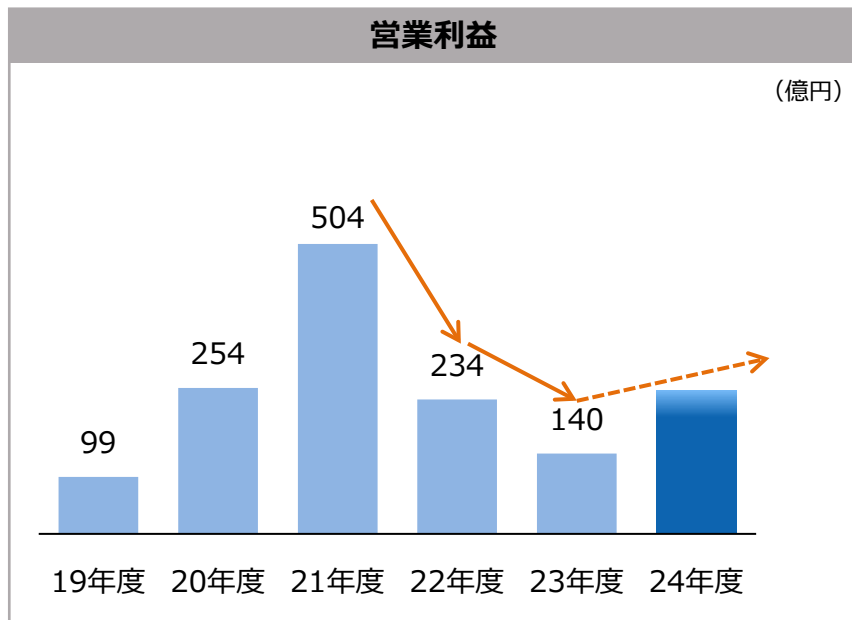
- 23年度に獲得を見込む新規顧客等も背景として成長を加速
- コロナ関連検査はPOCT中心に定着を見込む

■ 新型コロナを除く売上高 ■ 新型コロナ関連売上高 (億円)



# 24年度の営業利益・EBITDAイメージ

- H.U. Bioness Complexを中心とした固定費削減および効率化効果の最大発現、一時費用の減少
- ベース事業のオーガニック成長



# 当社のサステナビリティ

---



# 現行のサステナビリティ・ロードマップ

## H.U.グループサステナビリティ・ロードマップ 3カ年目標(2020-2022年度)

《定量的目標》

《2022年度実績》

《定性的目標》

《2022年度実績》

<b>環境・エネルギー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ CO<sub>2</sub>：7%削減 (2017年度比)</li> <li>➤ 廃プラリサイクル率：15 %向上 (2017年度比)</li> <li>➤ CDP：B評価以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 24.2%削減</li> <li>➤ 29.9%向上</li> <li>➤ 2022年度から2年連続でA- (Aマイナス) の評価</li> </ul>	<b>社会貢献</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 臨床検査の普及啓発 継続40年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 臨床検査の普及啓発を開始してから2021年で40年</li> </ul>
<b>人的資本</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 課長以上の女性管理職20%</li> <li>➤ ホワイト500の取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 20.2%</li> <li>➤ 2022年度から2年連続で取得</li> </ul>	<b>コミュニケーション</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ESG説明会の開催 第1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2022年3月に開催</li> </ul>
<b>サプライチェーンマネジメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ UNGCセルフアセスメントツール、優良回答率 (A) 90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 70.3%</li> </ul>	<b>BCP</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ H.U.Bioness Complex稼働 (高いレジリエンスの実現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2022年1月に稼働</li> </ul>

# 外部評価機関によるESG評価

## Ratings



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

FTSE Blossom Japan  
Sector Relative Index

✓ 2022年4月に選定



CDP

✓ 気候変動:2022年 A-評価 (2年連続)

✓ SER(※):2023年 A評価

MSCI  
ESG RATINGS



MSCI ESG Ratings

✓ 2022年に

AAA評価(最上位)を獲得

CCC | B | BB | BBB | A | AA | AAA



健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

経済産業省ホワイト500

✓ 2022年より2年連続で認定



Sustainalytics

✓ 2022年のレーティングで

Low Riskを維持



ISS ESG

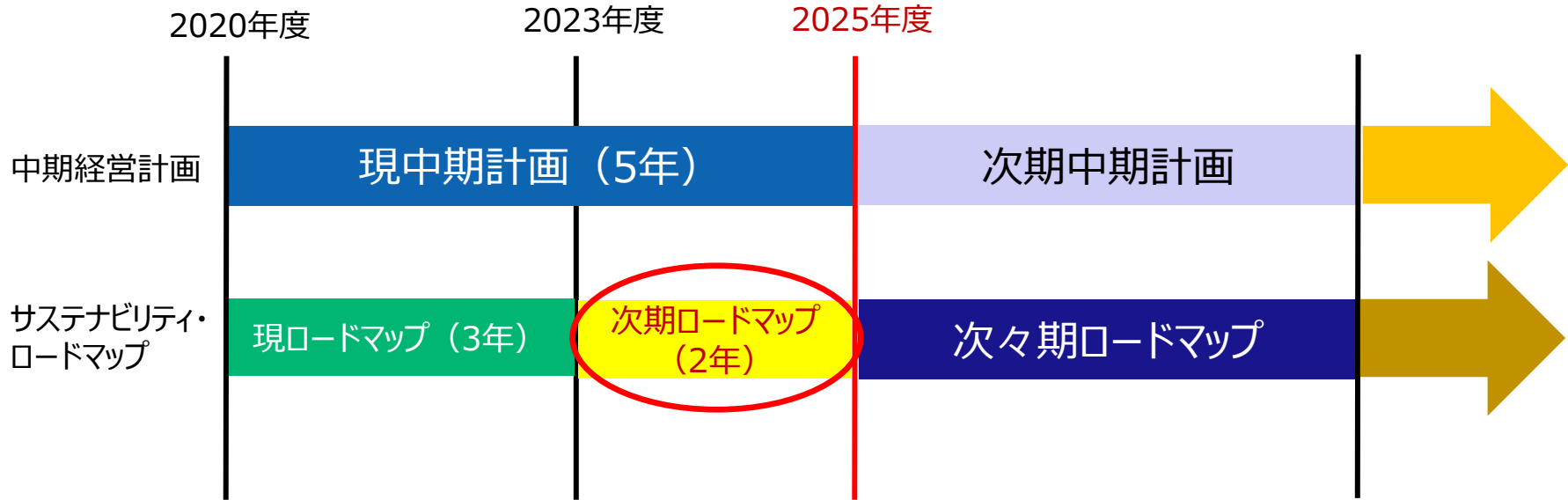
✓ 2023年 Prime評価認定

## Index

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数 ✓ 2017年度より  
6年連続選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN) ✓ 2019年度より  
4年連続選定

# 新たなサステナビリティ・ロードマップの期間設定の考え方



## <期間設定の考え方>

現行の「中期計画」の節目となる2024年度末までの2カ年で策定

⇒ 2025年度以降は、次期中期経営計画と同期間で設定することを想定

# 新たなH.U.グループ サステナビリティ・ロードマップ

## H.U.グループ サステナビリティ・ロードマップ

### 2カ年目標（2023-2024年度）

環境 (E)	<ul style="list-style-type: none"><li>CO<sub>2</sub>総排出量 12.6%削減（2021年度比）</li><li>廃プラスチックリサイクル率 82%</li></ul>
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"><li>課長以上の女性管理職比率 22%</li><li>男性の育児休業・休暇取得率 90%</li><li>従業員を対象とした調査で「仕事に満足」していると回答した従業員の割合 55%</li><li>ホワイト500の維持</li><li>正社員1人当たりの年間平均研修※1時間 30時間以上の継続</li><li>UNGCセルフアセスメントツール、優良回答群（A） 75%※2</li><li>サプライヤーとの意見交換会 30社※2</li></ul> <p>※1 DX研修含む ※2 2022～2024年度の3年累計</p>
ガバナンス (G)	<ul style="list-style-type: none"><li>役員報酬への非財務指標の導入</li><li>指名委員会委員の社内取締役の兼任解消</li></ul>

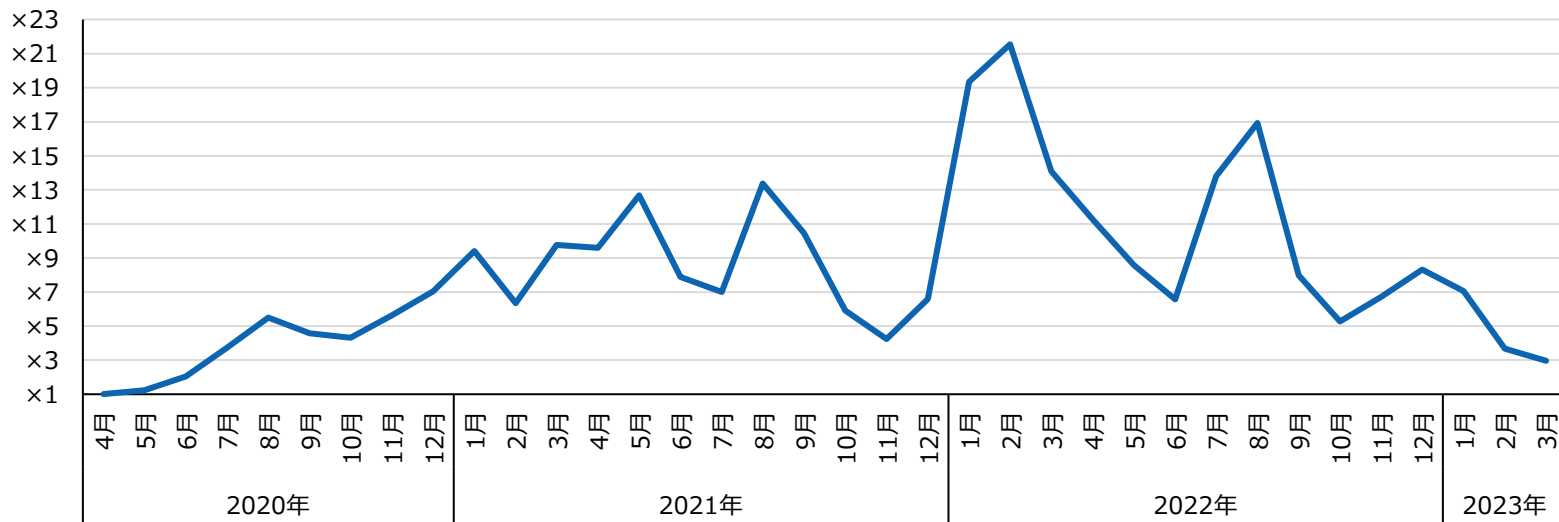
# Appendix

---

# 新型コロナウイルスPCR検査実施数

## PCR検査受託状況（新型コロナウイルス関連）

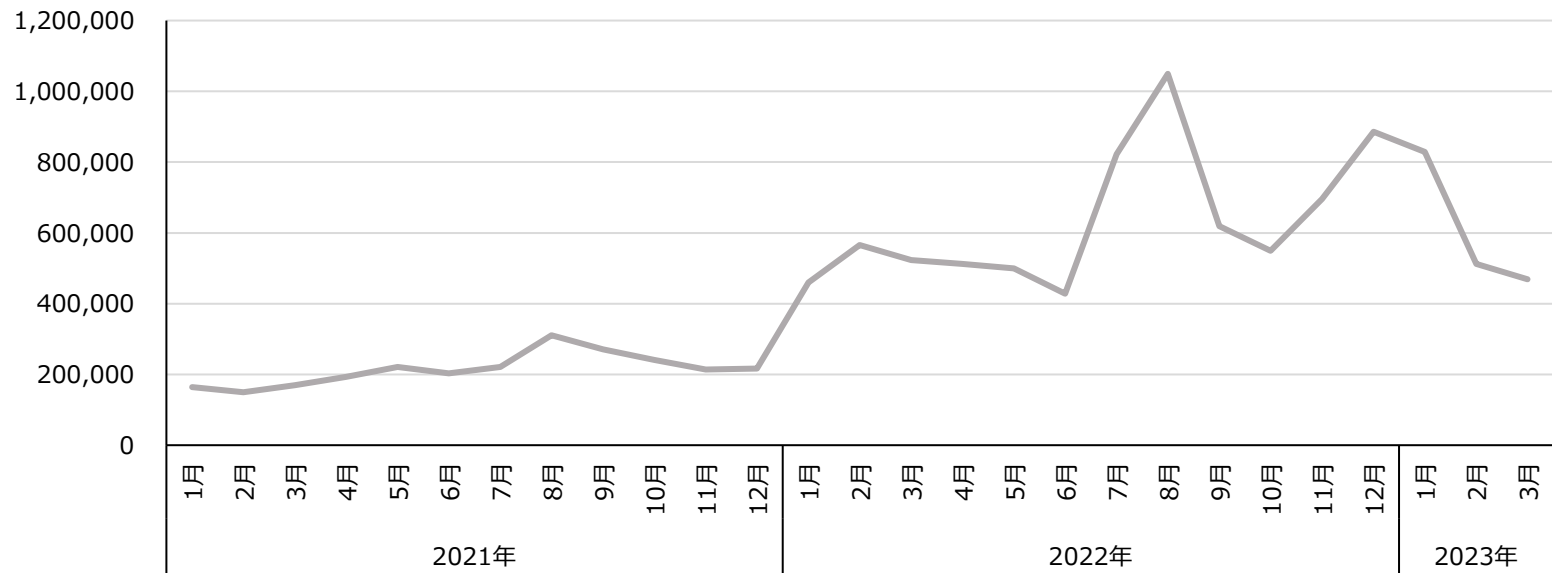
2020年4月の受託総数を1とした場合の増加率※



※ SRL、日本臨床の全国での受託

# 新型コロナウイルス抗原定量検査実施数

## 医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数※



## 【連絡先】

**H.U.グループホールディングス株式会社**

**IR/SR部 ir@hugp.com**

### **将来見通しに関する注意事項：**

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。